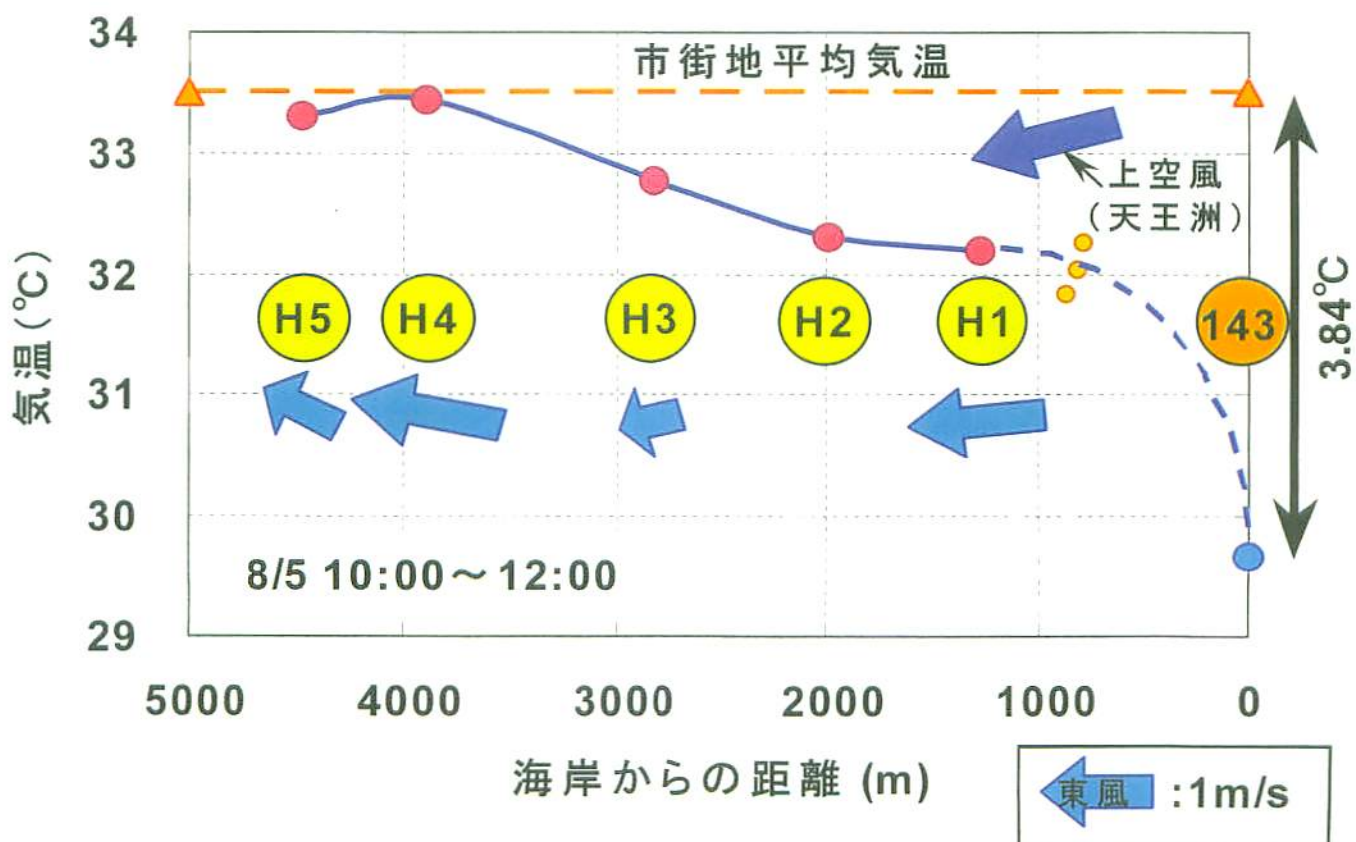
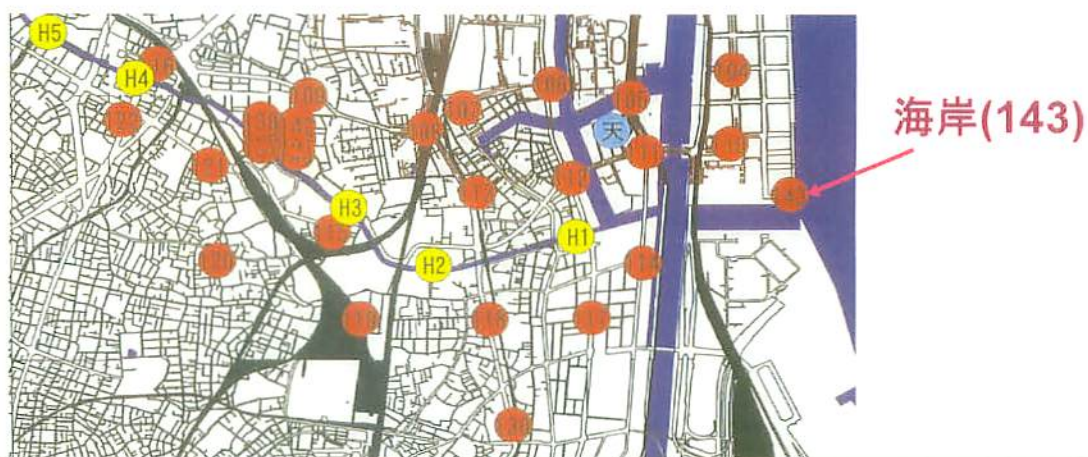
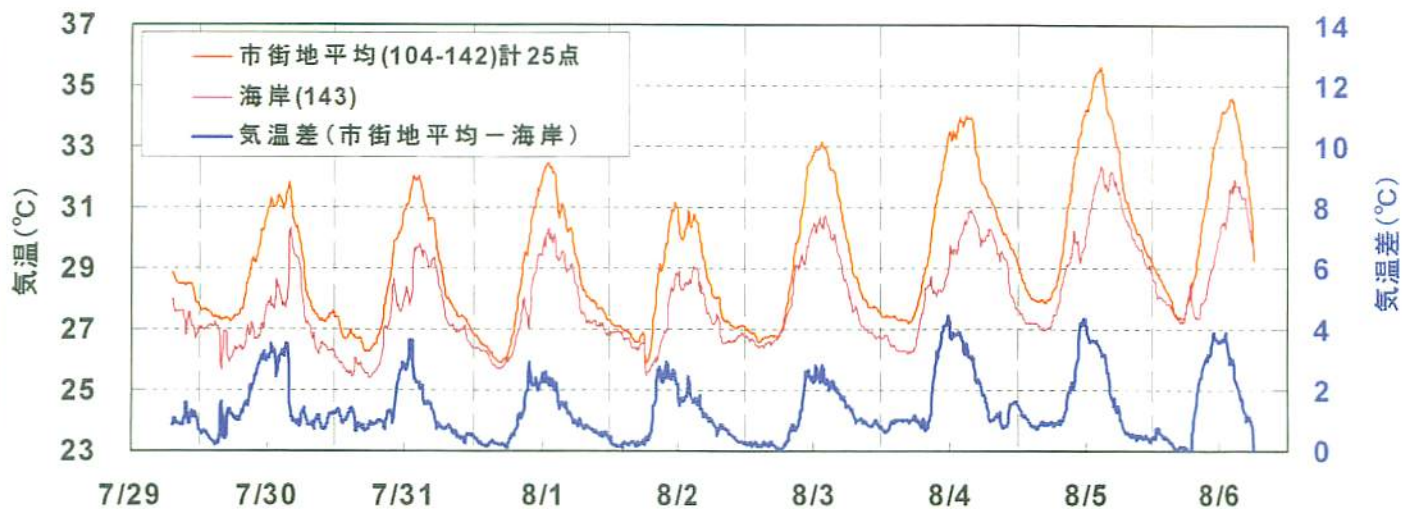


# 目黒川・大崎周辺の調査結果

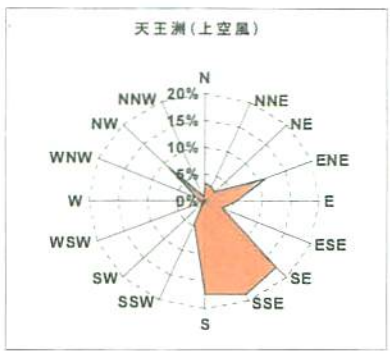
日本工業大学・工学部建築学科  
成田 健一





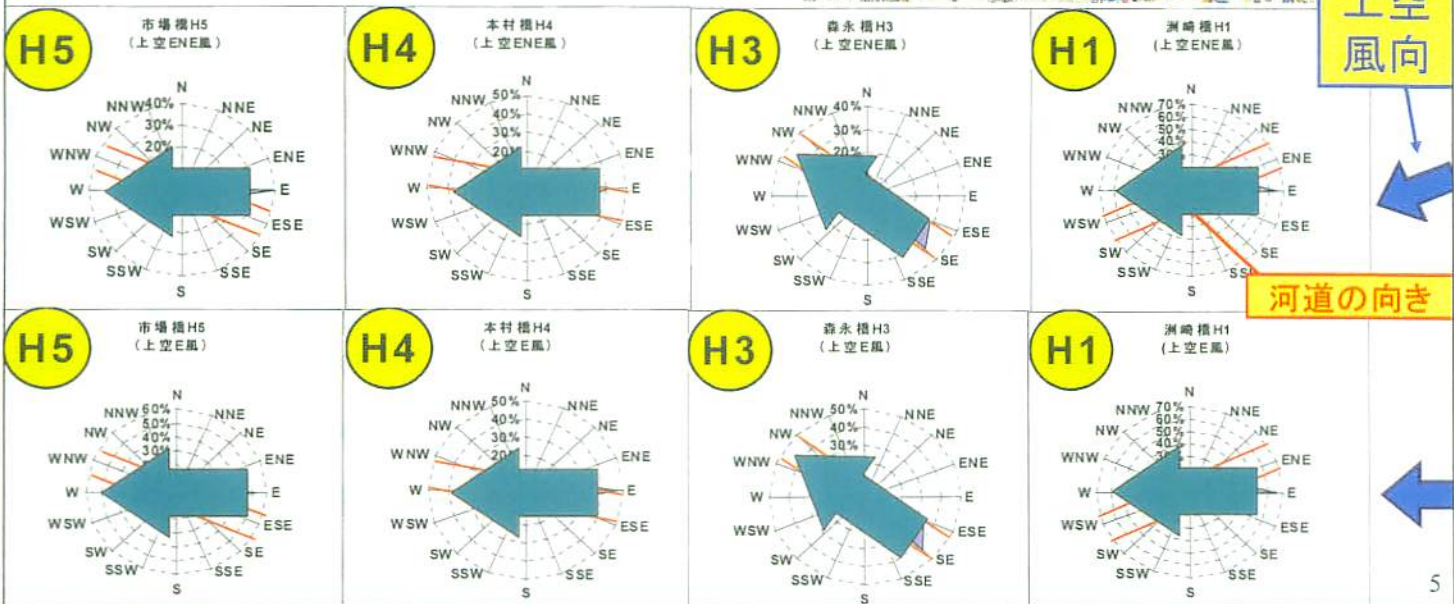
2005.7.26~8.6

東よりの風

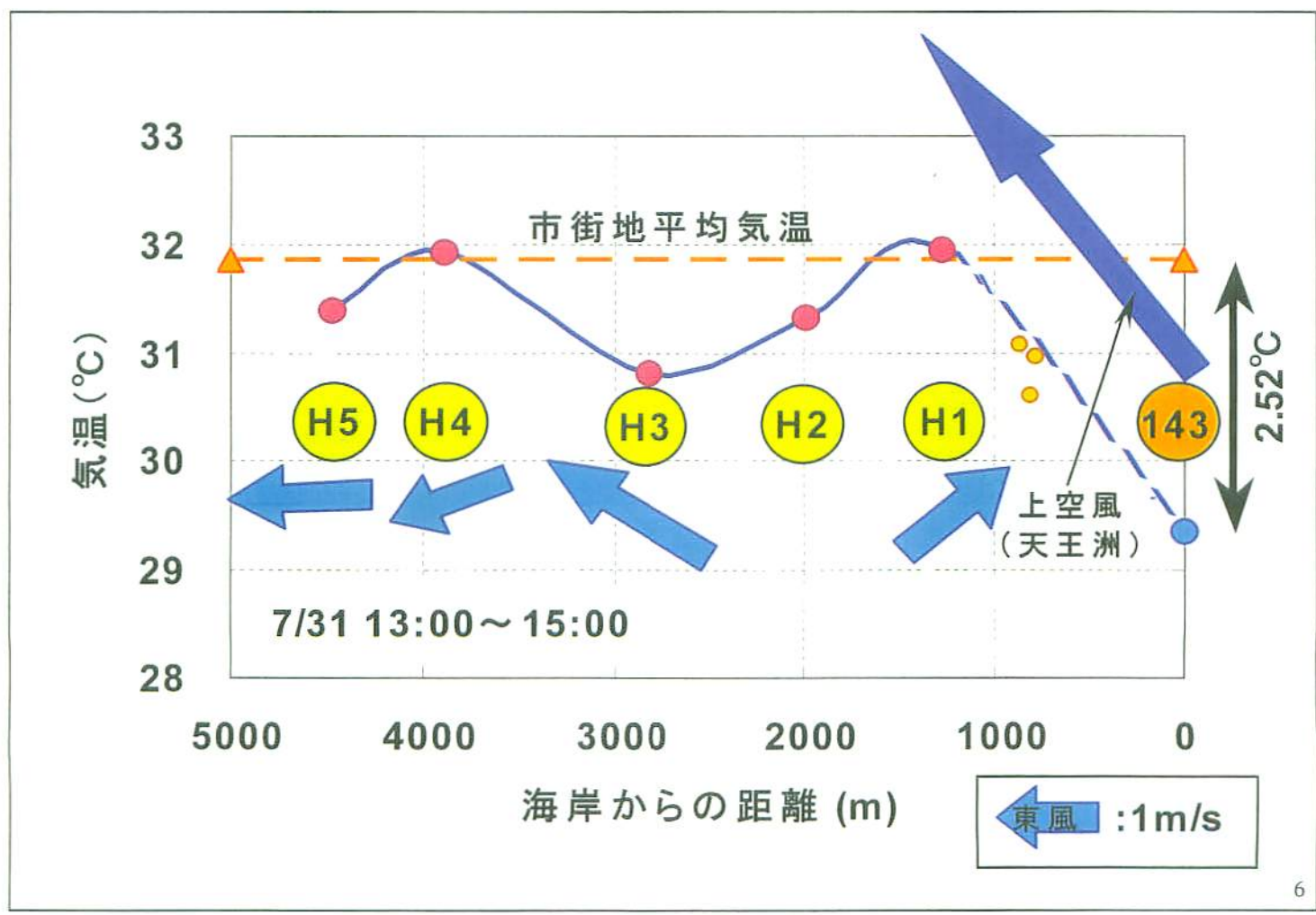


上空風向

河道の向き



5



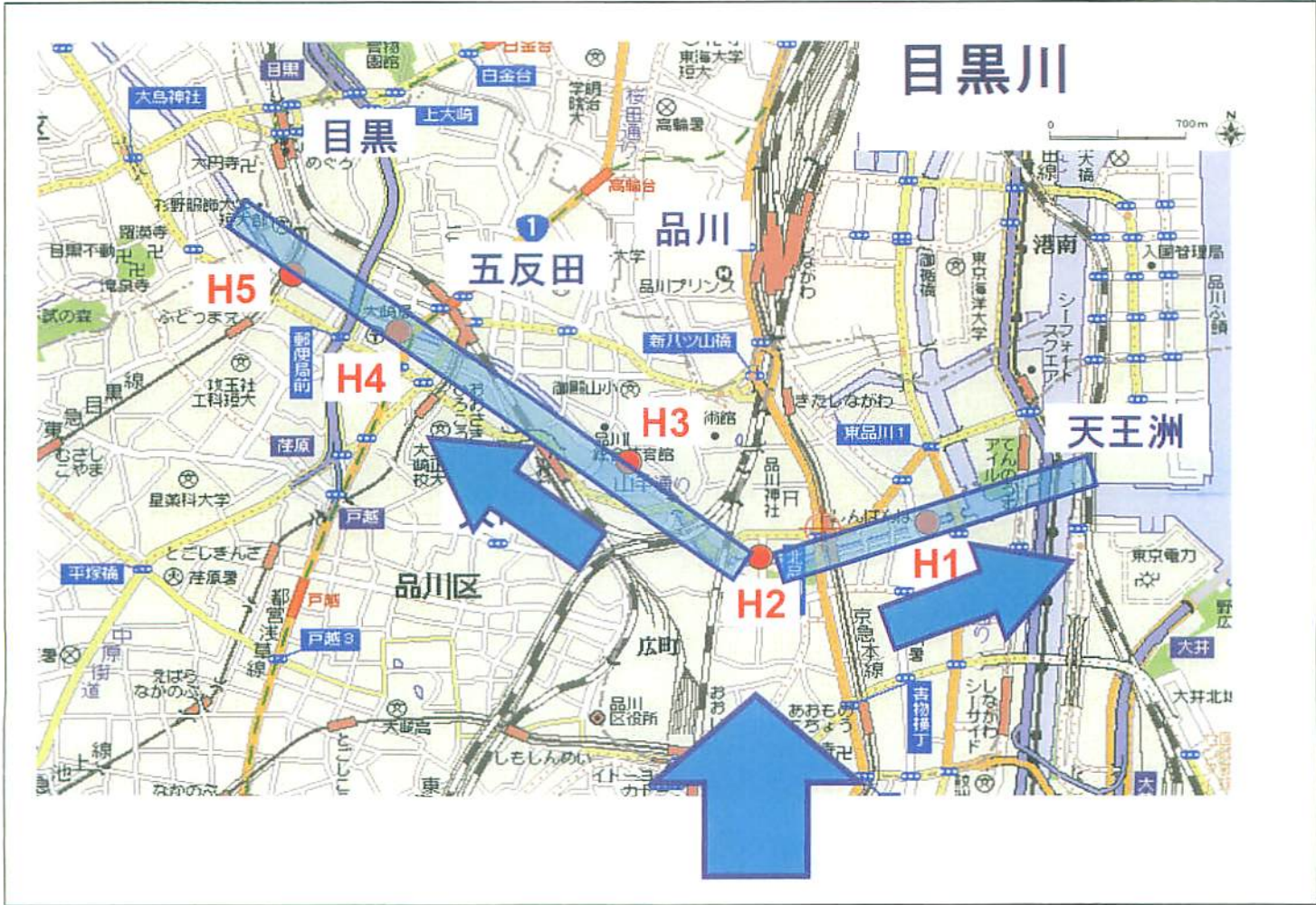
6

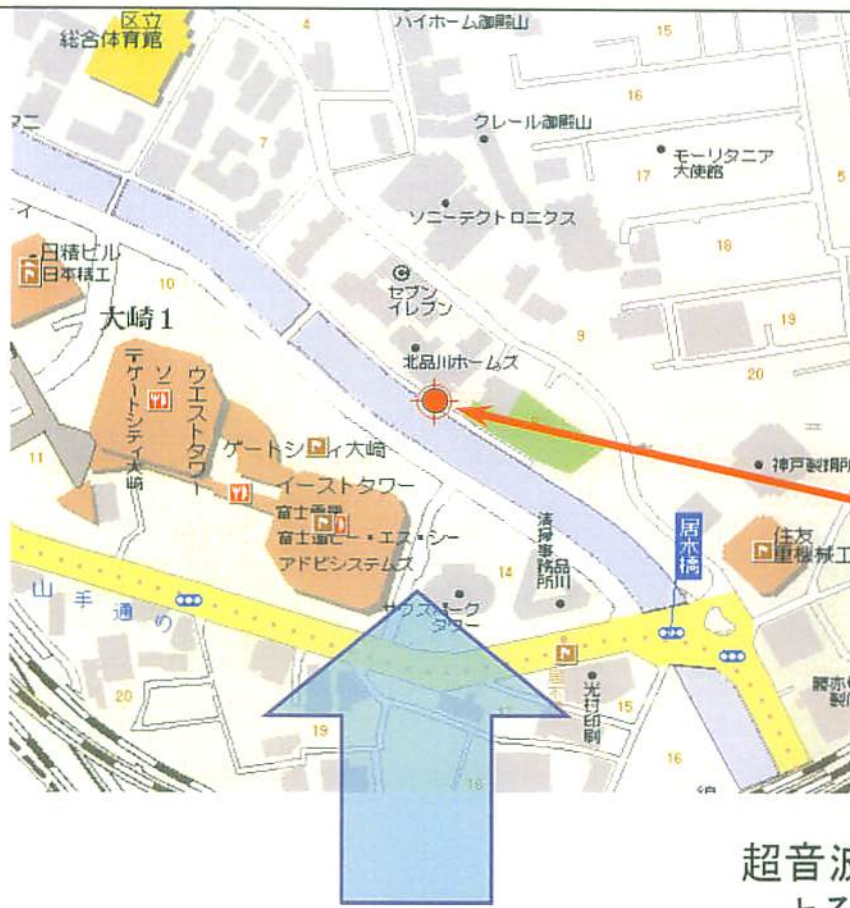
# 南よりの風(海風卓越風向)

上空  
風向



河道の向き





超音波風速温度計による観測ポイント

海風？



海風

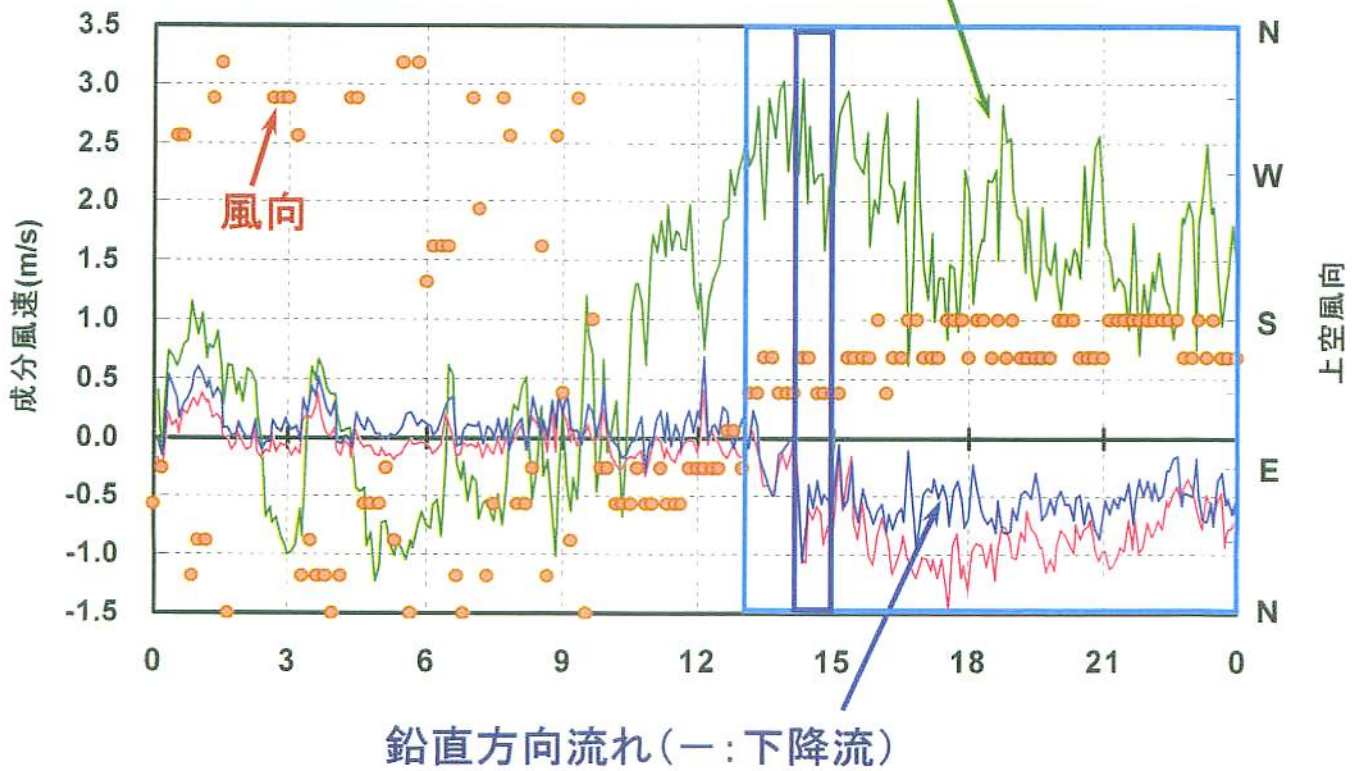
超音波風速温度計

河口

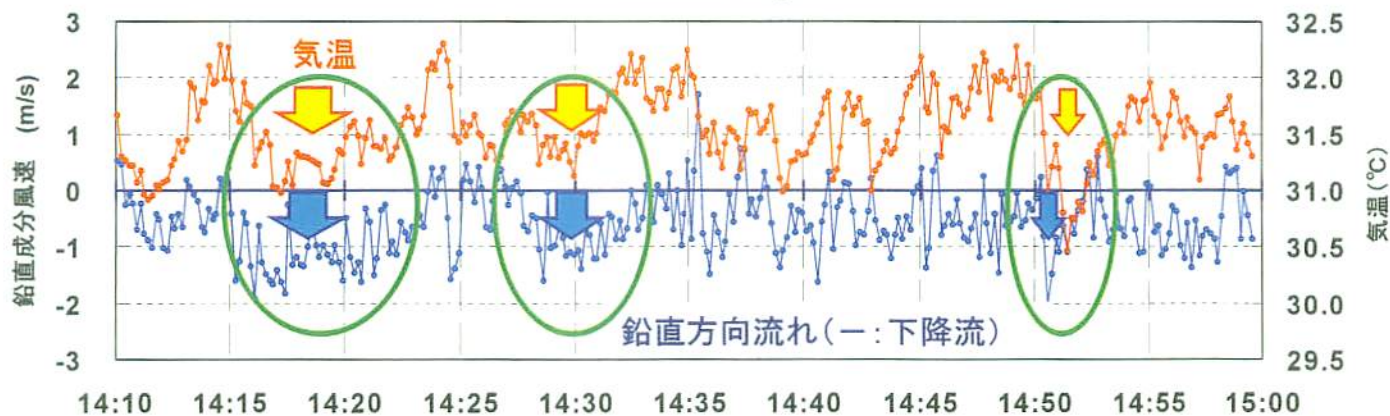


2005.7.31

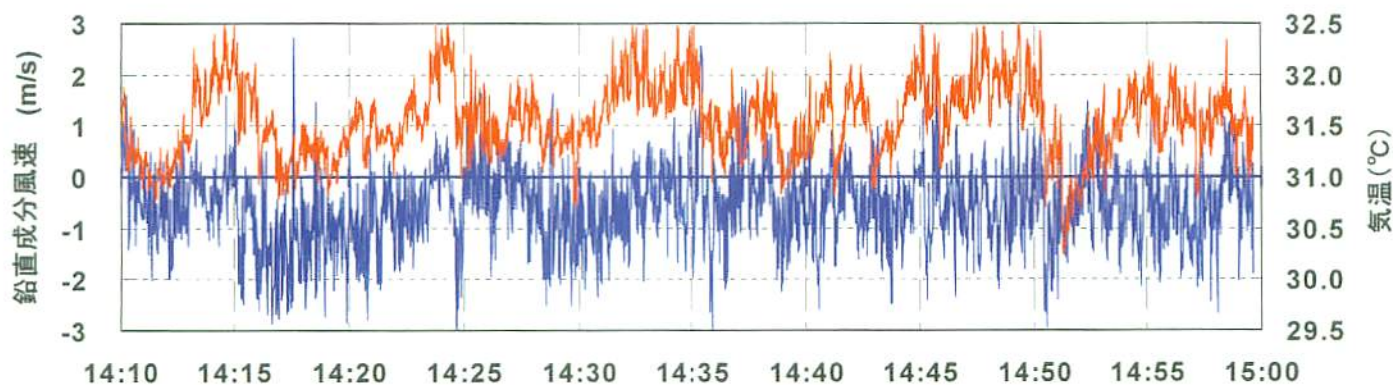
河道に沿った流れ(+:河口→上流)



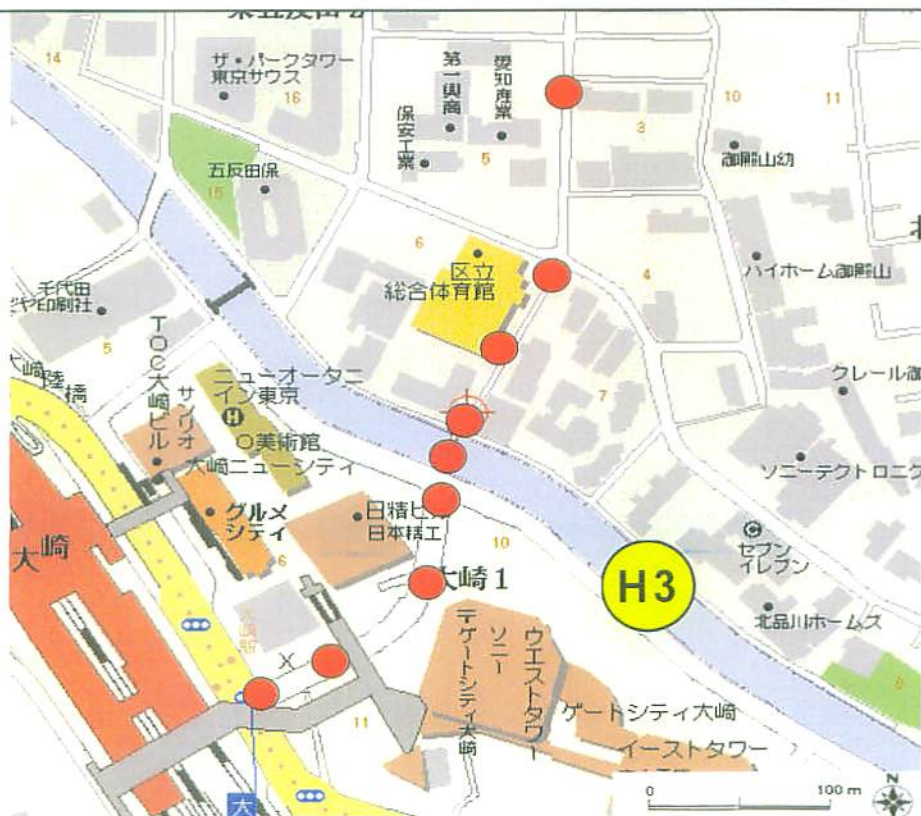
10sec-average



1sec-average



Aコース

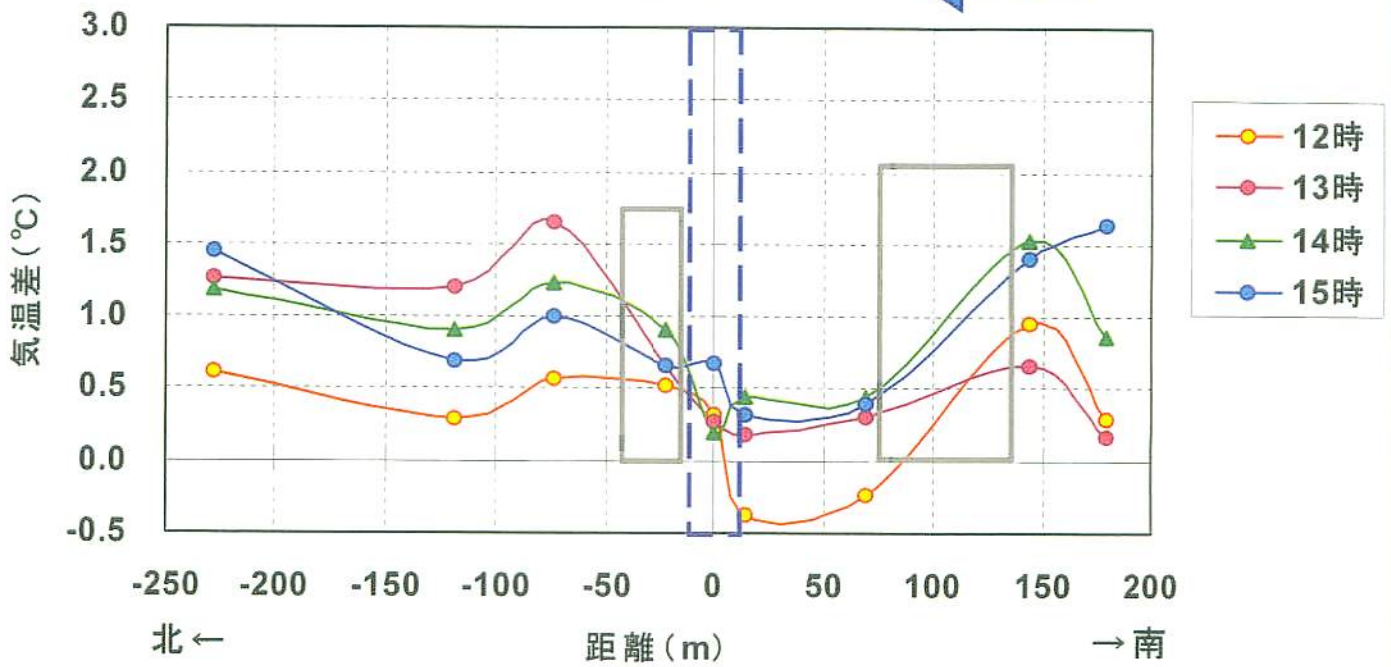


日中(6時~21時)は1時間毎、その外の夜間は3時間毎。

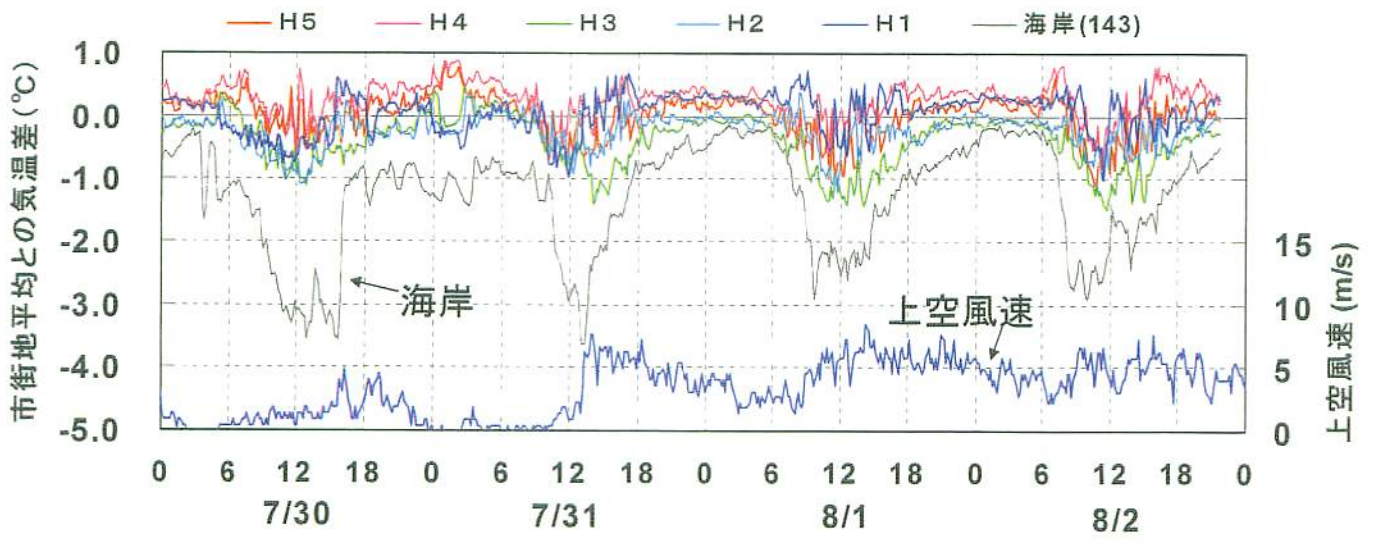
各ポイントで3分間測定、1分で移動。

2005. 7. 31

Aコース



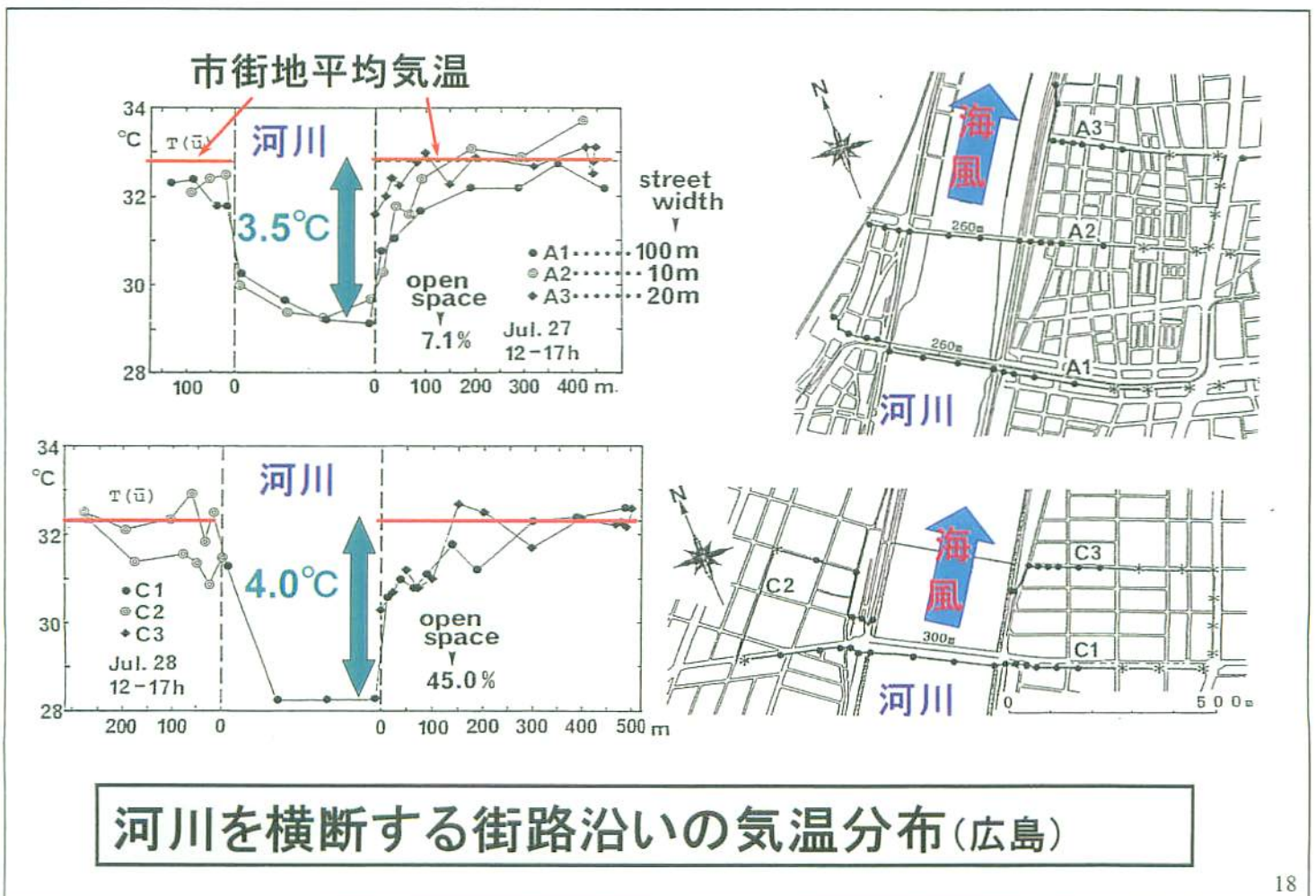
\* 気温差 = 最も近い河川上定点との気温差 (Aコース:H3 **H3**)

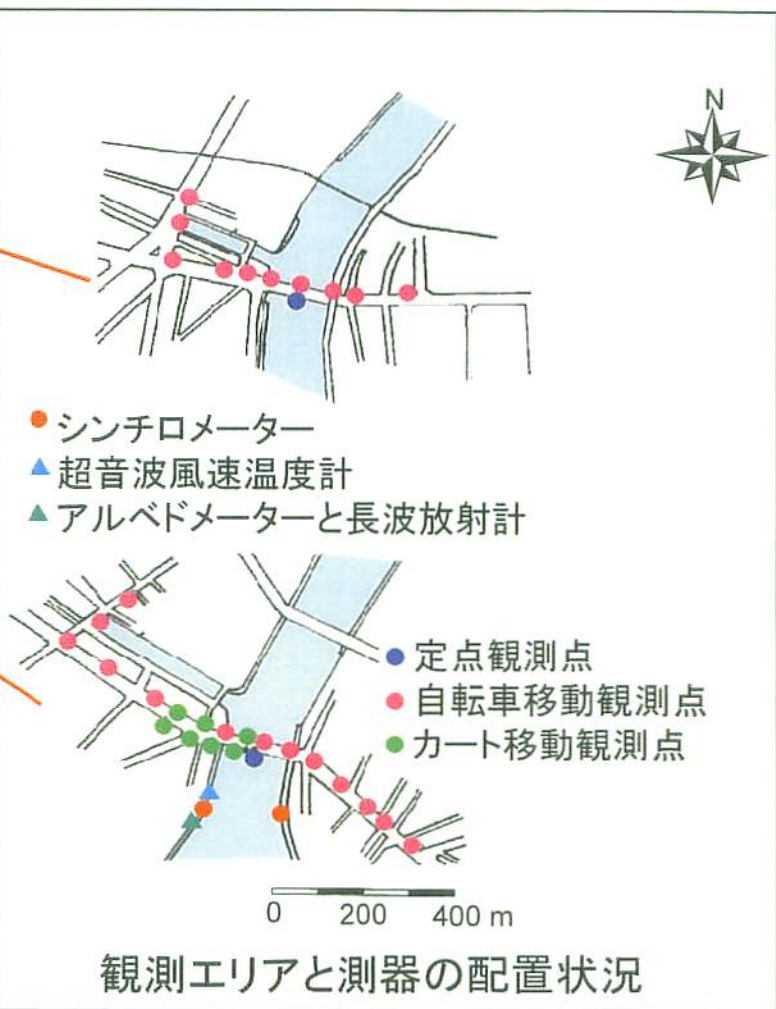
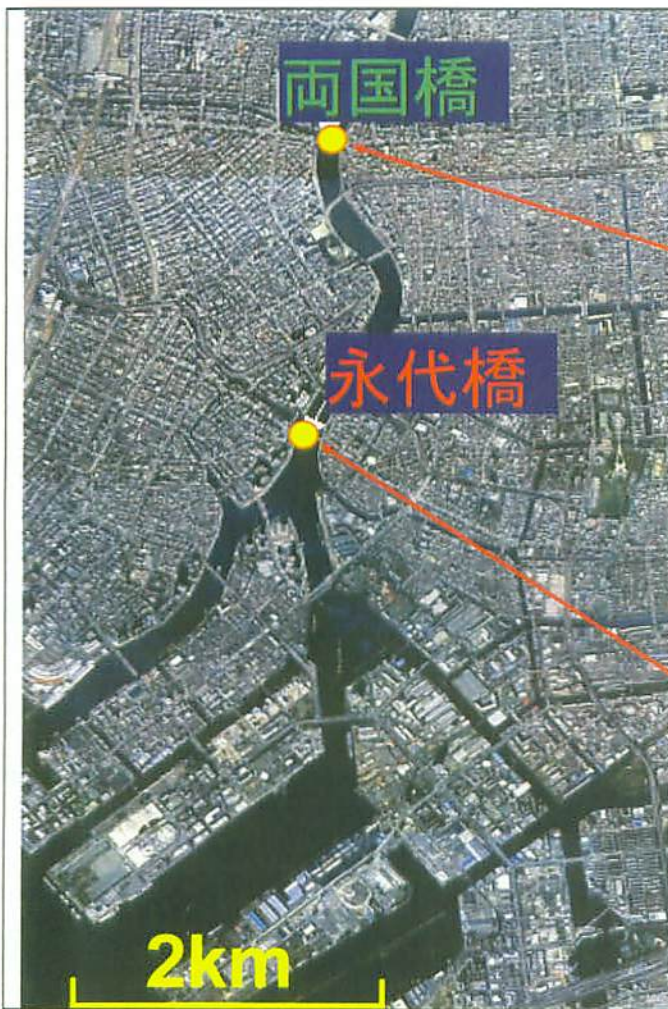


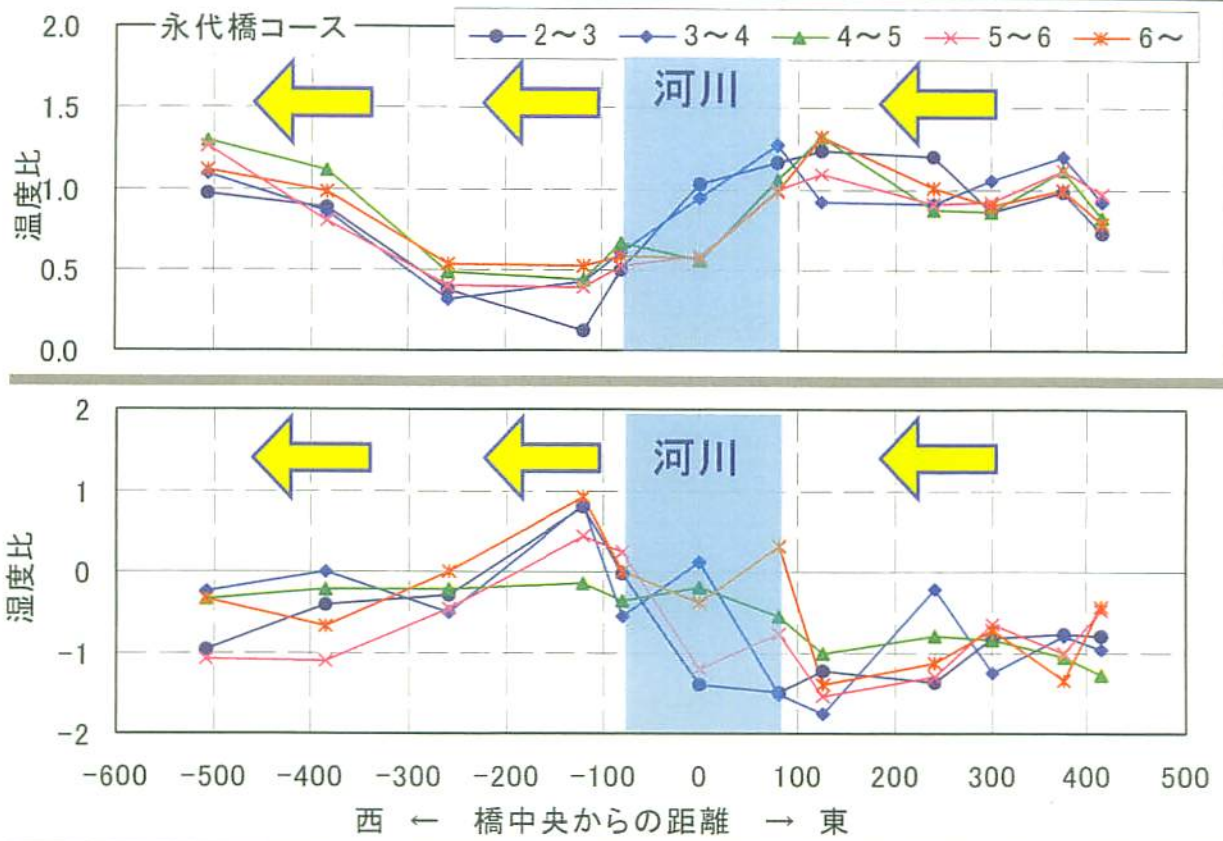
市街地平均気温からの温度差



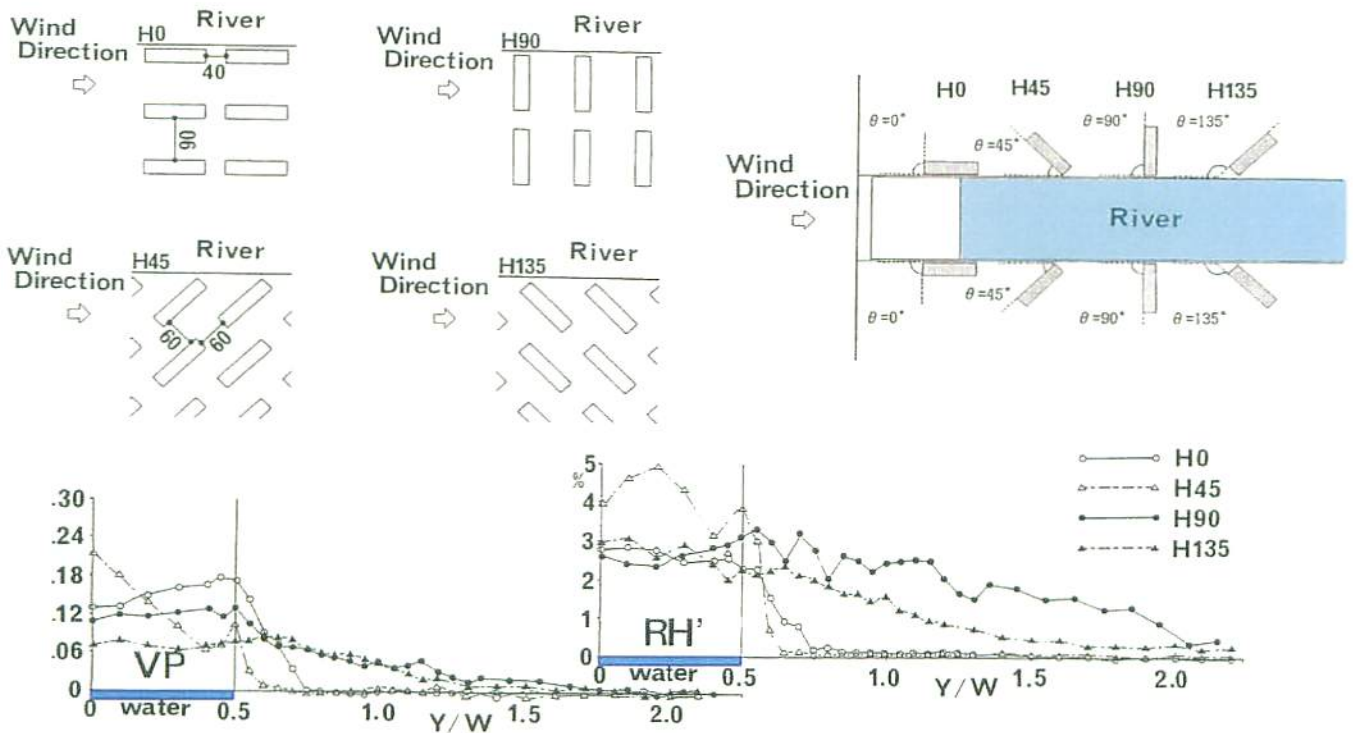
- ・海風の冷却ポテンシャルは、日中、約4°C程度である。
- ・風向が河道に平行する時、河川は連続した風の道となる。
- ・目黒川は「く」の字型の河道形状を有するため、南風時には必ずしも連続した風の道とならない。
- ・風向によっては、河岸の建物が上空の冷風を河道に誘導する働きをするため、河口から連続しない条件でも、途中から風の道が発生しうる。
- ・河岸の建物は、条件によっては周辺への河風の広がりを妨げる場合もある。



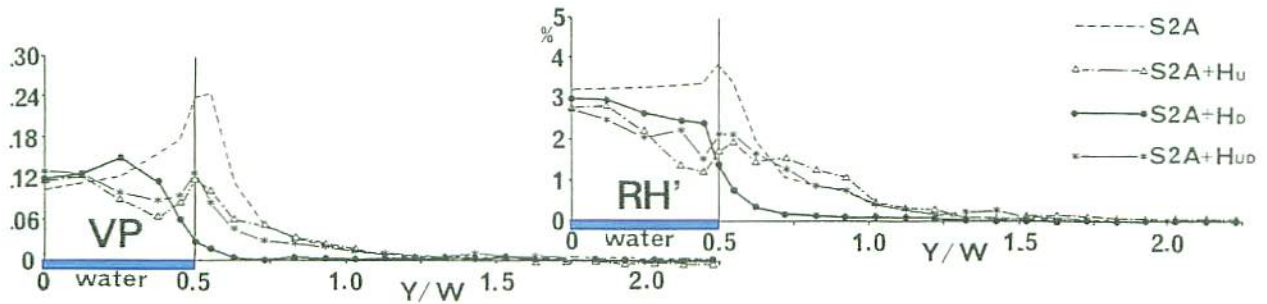
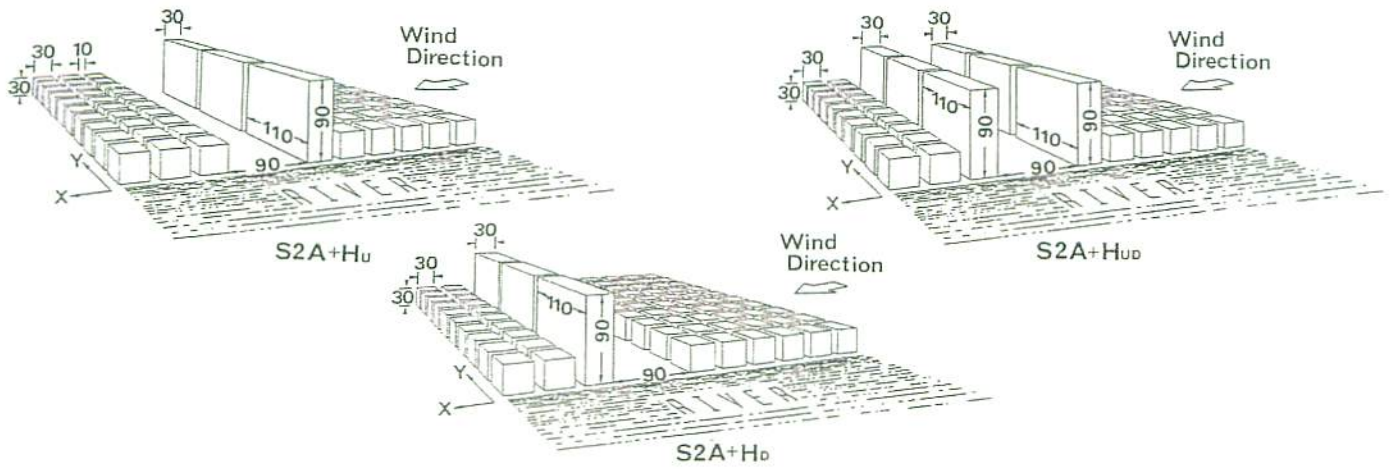




風速ランク別の温度比・湿度比分布(永代橋)



河川沿いの高層建物の角度による影響



## 街路沿いの高層建物の影響

23

いくつかの主な論点として...

海風の方角と河道の方角の関係⇒非常に重要！

河川効果が及ぶ範囲⇒街路の向き・風向に大きく依存！

大河川の場合：直交方向に200～300mの範囲まで

中小河川の場合：周辺の建物配置との関係・・・

河川沿いの建物の効果⇒上空風の取り込みにはプラス！

⇒地上レベルでの拡がりにはマイナス？

24